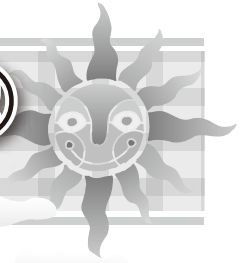




観光と農業のにぎわい ⑫



～ 農水産物流通・加工・観光拠点施設 ～

これまで、当該拠点施設を支える農地の多面的機能を説明してきましたが、今回は、その機能の一つである「文化を伝承する機能」について、本町の特質する行事(大綱引)を紹介しながら説明します。

現在、町内では、10ヶ字で綱引チナヒチが行われていますが、戦前は、水田が主で、藁わらの供給も豊富であったことから豊作祈願や祝捷記念等で、「間切綱しゆくしゅう」や「村綱まぎりづな」の大綱引そんづなが行われていました。

昭和12年の河川改修事業の完成と村の平和を祈念した大綱引は、村を二分しての大衆綱スネージナで、綱引の綱は、現在の与那原綱の二倍余もある大綱だったようです。

綱引当日は、西原村尋常高等小学校(現在の西原中学校)に集合し、そこから旗頭を先頭に二手に分かれ、東組は、呉屋から小那覇を通り、西組は、小波津から我謝じんじょうを通過して綱引会場(我謝馬場)までミチジュネーを行い、会場に到着すると、待ち兼ねていた万余の観衆が歓呼で迎え、会場は足を踏み入れる余地さえないくらいの状況だったそうです。



本町は、戦前・戦後を通して綱引きが盛んな地域であり、西原まつりでも旗頭の競演がメインのイベントになっていることから、当該拠点施設の歴史文化展示室では、各字の綱を实物展示(数年毎の入替)する常設スペースを設け、貴重な伝統文化の継承と発展につなげていきます。

農水産物流通・加工・観光拠点施設



歴史文化展示室

